



長崎純心大学 開学25周年を迎えて

長崎純心大学長
片岡 瑠美子

長崎純心大学開学25周年記念講演会／祝賀会

1994年4月、「レジオ」が今、長崎に甦る「とキャッチフレーズを掲げ、キリスト教的ヒューマンイズムに基づき、「知恵のみちを歩み人と世界に奉仕する」心豊かな人材の育成を使命とする、長崎純心大学が始まりました。

江戸時代、長崎の旧県庁跡地にあった岬の教会に1598年からイエズス会の高等教育機関が置かれ、禁教令のために16年間で終わりましたが、ラテン語を習得した若い日本人学生がヨーロッパと同じレベルの自然科学、哲学、神学を学びました。そこから20名ほどが追放されたマニラやローマで司祭となり日本に帰り、多くが日本人のために働き、殉教していきました。日本で最初の大学教育が行われたこの「レジオ」を理想としたい、ということでこのキャッチフレーズが生まれました。

その後、英語情報学科、人間心理学が開設され、短期大学の保育科が児童保育学科として四年制に移行し、1学部5学科体制ができました。こうして2006年、純心女子短期大学は閉学しました。この間に大学院に博士前期課程・後期課程を設置することができました。

また、1583年には長崎のキリシタン信者たちが自発的に慈善事業を行う「ミゼリコルディアの組」という組織が生まれ、キリスト教的福祉活動も活発に行われました。

本学はこれらの長崎の歴史と文化を継承してきた純心女子短期大学を改組し、比較文化学科と現代福祉学科の2学科からなる人文福祉と医療、薬学、心理学の知識と技能が求められる多職種連携が必須事項と認識されました。本学はすでに長崎大学医学部との共修授業、多職種連携を実習する五島や平戸での合同合宿を始めましたので、ここに人間心理学科を加え、「地域包括支援学科」として地域福祉に対応できる体制を整えました。

2015年には学校法人純心女子学園の創立80周年を幼稚園、中学・高等学校、大学、同窓会が一つとなって開催、祝うことができました。そのころ日本では、大学の2018年問題という言葉がしばしば聞かれるようになりました。しかし、長崎では2018年を待たず、すでに2015年度から18歳人口の減少が顕著となりました。私たちは受験生・学生たちが学びたいことはなにか、長崎という地域が大学に求めているものは何かを研究・模索し、まずは2017年、現代福祉学科の名称を行政と合わせ、地域包括支援学科と変更し、急速に進む少子高齢化社会に対応できる人材養成を目指すしていることを明らかにしました。特に高齢化が急速に進む離島における福祉活動のためには、



祝賀会のようす

さらに本学附属純心幼稚園が認定こども園に移行したこともあり、児童保育学科を「保育士・幼稚園教員養成コース」と「小学校教員養成コース」の2コースからなる「こども教育保育学科」とし、1学部3学科体制となりました。就職率は毎年ほぼ100%を達成し、その多くが県内企業へ就職しています。また、今年の長崎県小学校教員採用試験には受験した学生全員が合格できました。

現代福祉学科は2000年度から男女共学になりましたが、今年度(2019年度)から全学科を男女共学とし、一連の改革を終えましたが、男子学生の在籍数はまだ1割に満たないのですが、キャンパスに活気をもたらしてくれています。

2018年には地球規模でグローバル化する時代に貢献できるよう、長崎の歴史文化を学び、それを国内外へ発信し、多文化社会で活躍できる知識と手段を磨くために、比較文化学科と英語情報学科を統合し、「文化コミュニケーション学科」としました。

また、本学へ生徒を送ってくださる高等学校の先生方、県内大学の学長先生方、近隣自治会の自治会長様方、学生会代表、純心コール・マリーエの皆さん、同窓会・後援会の歴代理事会長様方、純心女子学園理事・監事の皆様にこれまでのご鞭撻と支援に心からの感謝を表しました。そして、耐震工事を終えた大学キャンパスをご覧いただきたいの思いで、大学キャンパスでの講演会・祝賀会とさせていただきますことになりました。純心流おもてなしを楽しんでいただくと嬉しく思います。

本日の講演からひとつのしるしを読み取りながら、変えるべきことを変え、変えてはならないことを懸命に見分け、本学で学ぶことを選んで学生が夢を実現できるよう、共に「知恵のみちを歩み人と世界に奉仕する」大学教育を目指して決意を新たにいたします。

長崎純心大学開学25周年記念講演会 学長挨拶より (2019年10月26日)

長崎純心大学開学25周年



純心コール・マリーエによる学園歌、純心賛歌の合唱



聖心女子大学学長 高祖敏明先生による講演

